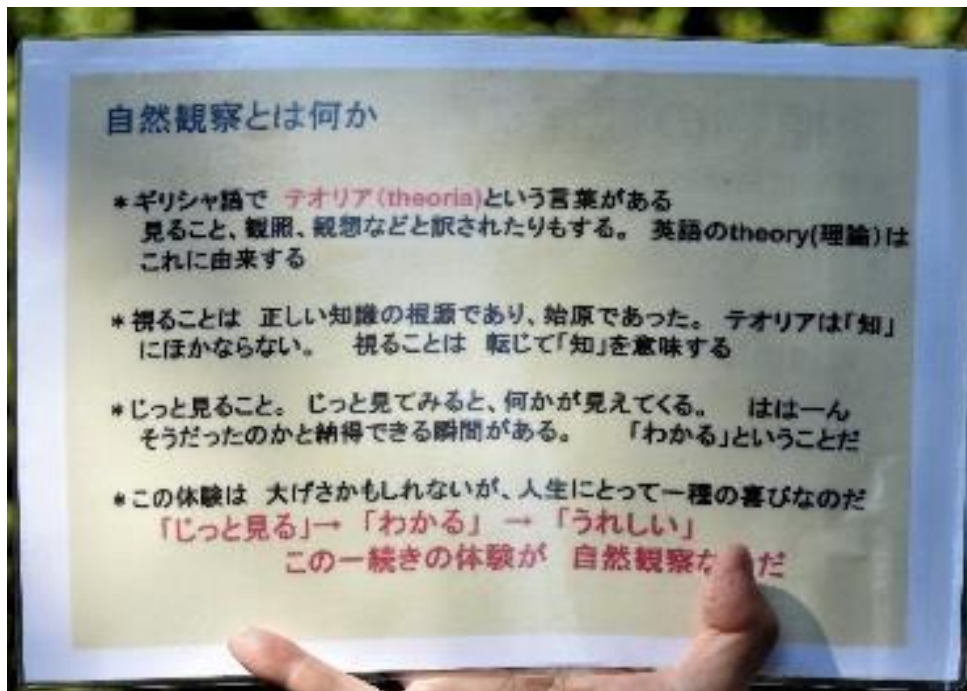




今年のフォローアップ研修はコロナの為に乗り物の利用をやめて飛鳥歴史公園の公園館の周りで講師の先生をお招きして観察会を行うことになりました。

10月4日(月)、好天に恵まれ 30 名の方々が参加して行われました。

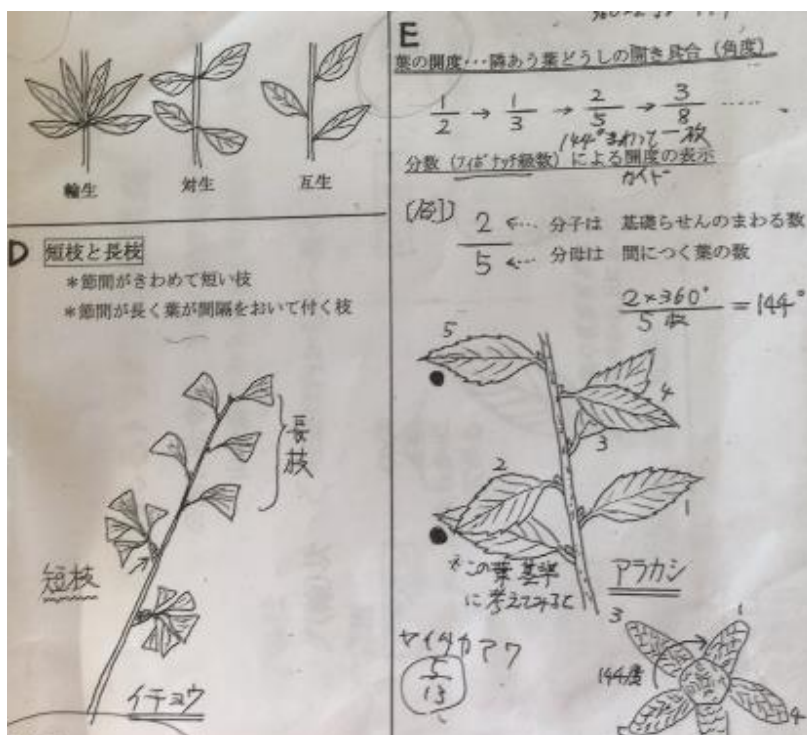


講師の先生は大阪市立自然史博物館友の会副会長の田代貢先生にお願いして、「見る、わかる、うれしい自然観察」という題でフォローアップ研修を行いました。



田代先生

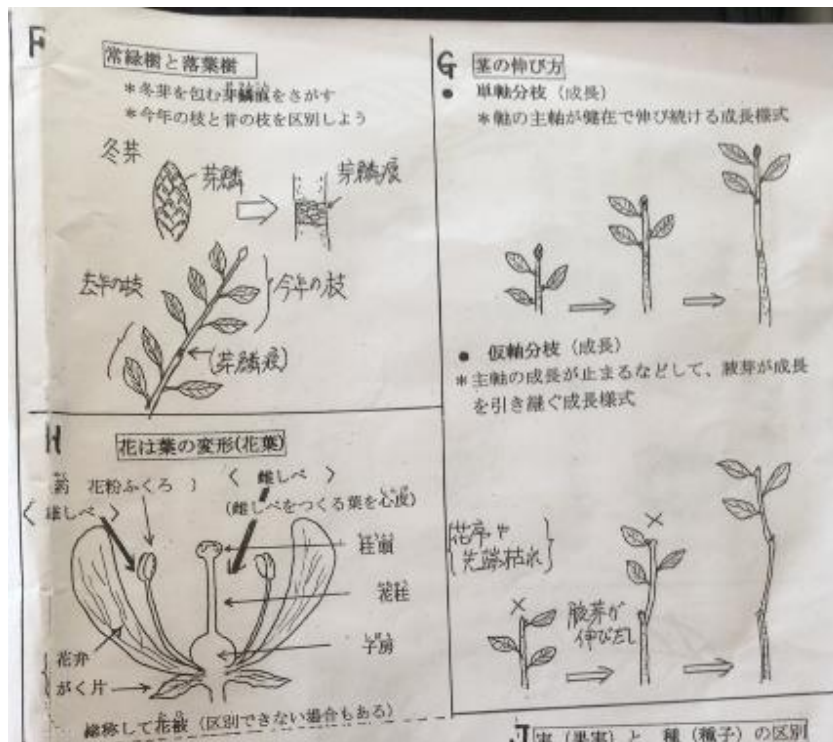
飛鳥歴史公園の植物を観察しながら、植物観察の基本について話していただきました。



左のような資料をいただき、飛鳥歴史公園の植物観察をしました。

手作りの資料を色々見せていただきながらお話を聞きました。

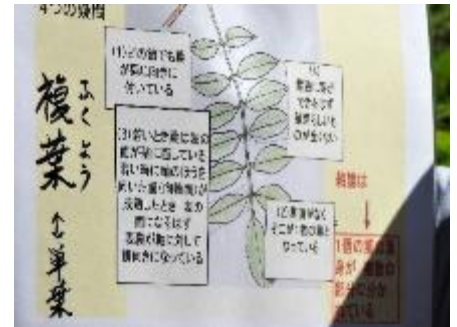
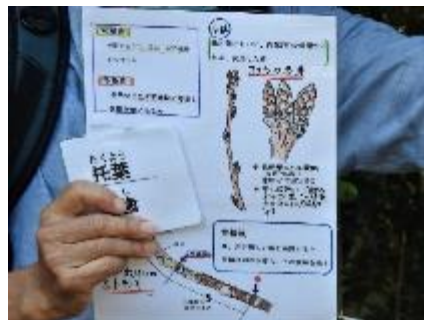
- A 葉の基本構造
- B 葉序(葉の付き方)
- C 単葉と複葉
- D 長枝と短枝
- E 葉の開度(隣り合う葉同士の葉の開き具合)
- F 常緑樹と落葉樹
- G 茎の伸び方
- H 花は葉の変形(花葉)
- I 花の進化(メシバ)の模式図
- J 実(果実)と種(種子)の区別



A～J のような内容でそれぞれについて観察ポイントで説明していただきました。



フィボナッチ級数について熱っぽく語りかける先生。



シイの木の下で常緑樹と落葉樹。そして芽鱗痕と冬芽についての説明。



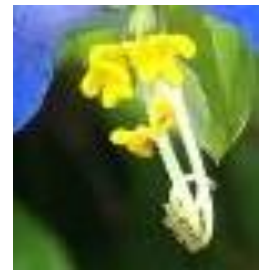
アレチヌスビトハギで単葉と複葉について説明。



葉の付き方(葉序)の説明の中で、互生の葉の開度を求める説明をされる先生。

フィボナッチ級数の話を聞いて私も自然の不思議を感じました。

フィボナッチ級数というのは1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144と続いていく数列のことです。自然のことを数学で表すことができる不思議に驚きました。



芝生広場でケヤキの説明。ツユクサの観察（ツユクサの花が萎むとき雄しべは雌しべに巻き付き自家受粉する）
昼からは公園の周囲を散策しました。



ベゴニアの雌花と雄花



イヌマキの種子



クサギの果実(二色効果)

木についたまま発根しているイヌマキの種子。(胎生種子)



左の写真はイヌビワの実です。
イヌビワとイヌビワコバチの
関係の説明を聞き、イヌビワ
の受粉について話を聞きました。



イチヨウで短枝と長枝の説明。



淡水の貝の先が欠けている訳(日本の河川は酸性。最初にできた貝の頭の方が酸で溶解。)

説明を聞くサークル員と終了の挨拶。



終わりに

好天に恵まれ少し暑いくらいでした。植物観察の基本をいろいろお話しいただいて本当に有意義な一日でした。先生の熱意に感謝しつつ観察を終えました。

いただいた資料で「身近にみられるドングリの検索表」が分かりやすかったのでご覧ください。

身近にみられるドングリの検索表

身近にみられるドングリの検索表

公園、社寺林、生垣など身近にみられるドングリを見分ける為の検索表です
山や森でみられるものは省いています

殻の模様は

リング(輪)状

＜ 柱頭は内から外へ開く ＞

常緑樹

アラカシ



なめらかに
広がる



葉のぎざぎざは
中央から上にある

公園、街路樹、家にも多い

シラカシ



やや突き出す



ぎざぎざは
基部にもある

＜ 柱頭は外をむく ＞

イチイガシ



ドングリ上部に
毛が多い

奈良公園などに多い

殻の模様は

うろこ(鱗)状

落葉樹

コナラ



細長いやや
太いのやいろいろ



ウバメガシ



鱗のお皿だが常緑樹



おしりが小さい



海岸地方や生垣に多い

殻の鱗は長くそりかえる

丸い大型のドングリ

クヌギ



アベマキ



ドングリでは区別しにくい

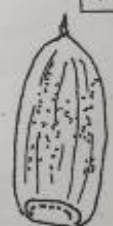
葉の裏に 毛がない

葉の裏に
毛があり白い

殻は一ヶ所に3個ぐらい

集まってつく

マテバシイ



おしりは引っ込む

すっぽり入る殻

シイ 常緑樹

普通ドングリとはいいません

渋がなく食用になる。



スタジイ

ツブラジイ

社寺林や古い林にみられる

葉の裏はにぶい輝きあり